



本町で平成15年に結成された女性消防隊
 社会人、妻、母など
 それぞれに本業を持ちながら
 防災活動に参加する18人の女性たち
 その隊を率いる入山さんに話を聞いた

私たちにできること

私たち女性消防隊の主な活動は消防・防災活動に対する後方支援です。

保育所、小中学校、介護施設や要請があった地区に出向いて救急救命法などの普及活動をしたり、防災に関するイベントなどで消防署と協力して、防火や防災啓発をしたりしています。

そこに至るまでは苦労もありました。消防署に通い救急救命普及員の資格を全

隊員が取得しましたし、他の女性消防隊と交流をもって、活動に関する情報収集なども行いました。その結果、消防署員のお手伝いしかできなかった私たちが、現在は女性消防隊主体で普及活動をさせてもらえるようになりました。

地域密着の活動

私は近所で緊急車両のサイレン音が聞こえたらなるべく駆け付けるようにして

地域の頼れる存在になりたい

— 鬼北町女性消防隊 隊長 入山 裕子さん



義母の榮恵さんに優しく話しかける裕子さん。その優しさが消防活動にも現れている

います。事故にあった人の家族に連絡したり、交通整理をしたりと、行けば何か役に立つことがあります。他の隊員も、夜中の通報で駆け付けた救急隊を通報者の家まで案内したり、事故に遭った人のそばで救急隊が来るまでの間、元気づけて応急処置をしたりしたこともあります。地元を知っているからこそできることです。私たちの活動は地域に密着していなければならぬと思っています。

驚いたのは、私たちの行っているこのような活動は、他市町村の女性消防隊ではやっていなかったのです。研修会などで意見交換をした際に、驚かれたことが印象的で忘れられないと同時に、自信にもつながりました。また、ある消防署員には「現場に来た時には知らない人ばかり。そこに顔見知りの女性消防隊員がいるとどこかほっとします」と言われました。素直にうれしかったです。

入隊当初は、義母の介護をしながらの活動、男性中心の組織で活動をするなどかなり不安はありましたが、そのようなことがあったので、入っていてよかったなと思えます。

全ては地域のために 私たち女性消防隊の目標は「地域の頼れる存在になること」です。

地域の人たちに「自分たちの地域には女性消防隊がいるから大丈夫」と言われるくらい、隊員同士が協力して活動に励みたいのです。



消防署員指導の下、訓練に励む女性消防隊。その表情は真剣そのもの